

## 北海道士幌町のバイオガス実証プラントが本格稼働

当社は、農林水産省から受託している『平成 25 年度地域循環型バイオガスシステム構築モデル事業』を実証するため、北海道士幌町内の農場敷地内にバイオガスプラントを建設し、このたび本格的に稼働を開始しましたのでお知らせいたします。この先進的モデルにより、地域循環型社会の普及に貢献してまいります。

### 記

#### 1. 事業の目的

東日本大震災や原子力発電所の事故発生以降、地域資源を循環活用した自立分散型エネルギーを確保する地域づくりへの取り組みが重要になっています。本事業では、食品残渣や家畜糞尿などの有機性廃棄物を原料としたバイオガスプラントから発生するバイオガスを、再生可能エネルギー(精製ガス・電気・熱)として広く地域へ供給し、温室効果ガス削減効果や事業性等の実証を行います。そして、その結果から課題の整理および克服方法を検討します。

#### 2. 本事業の構築モデル(士幌町)の概要

バイオガスプラント(処理能力:66m<sup>3</sup>/日、約牛 1,100 頭分の糞尿)内でメタン発酵させたバイオガスを燃料に発電し、農場内へ電力を供給します。また、一部のバイオガスは、メタン濃度を 90～95%まで精製・濃縮し、低圧メタン吸蔵容器で搬送、士幌町内の温室栽培施設(ビニールハウス 2 棟分)で冬季の暖房用燃料として利用します。

そして、メタン発酵槽から排出された消化液は、固液分離機を使用し固分と液分に分離します。固分は発電機の排熱を使って乾燥させ、牛の寝床の敷料として活用し、液分は液肥として貯留し、春から秋に畑作物および飼料作物の肥料として活用します。

